

開園三十二周年記念企画 令和五年度受賞スタッフ表彰会

二月一日、特別養護老人ホーム 広島和光園は三十二周年を迎えることができました。ご縁のあった皆様に感謝の気持ちでいっぱいですが、様々な課題はありますが、ちよつとずつ良い方向へ歩んでいきたいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。開園記念企画恒例、今年度様々な表彰を受けたスタッフへアンケートをお願いしました。Q①「福祉の仕事を選んだ理由は？」Q②「介護（看護）の仕事をしてみたいけどどうしようかな」と迷っている方へ一言！です。どうぞご覧ください！

《全国老人福祉施設協議会表彰》
◎山本理香（特養生活相談員兼介護支援専門員）
①「幼い頃、祖母を含め七人家族で私は祖母が大好きでおばあちゃん子でした。気丈で働き者の祖母でしたが体力が低下し、父が住宅改修を進めていた矢先、突然亡くなりました。その後も祖母の存在がいつも心の中にありました。その数年後、

介護福祉士を目指す友人に出会ったことで興味を持つようになりました」 ②「大変な時代を生きてこれだけ、たくさん経験がされてこれだけ人生の大先輩から学ぶ事は多いです」

《全国老人福祉施設協議会表彰受賞》
◎舛井多美（特養総務）
①「広島へ帰る時、管理栄養士の資格を活かせる仕事をしたと考えていた時、知人より和光園を紹介していただきました。右も左も分からない私でしたが、デイサービスや入所者さん、和光園の方々に助けていただきながら成長できたかと思えます」
②「以前『この仕事は徳積の仕事よ』と言われたことがあります。本当に仕事を重ね歳を重ねることにそうだなと思えます。お年寄りと接することだけが好きだったけど、この仕事を通じて少しでも入所者さんの生活を豊かにできたらと思います。一緒に徳積をしませんか？」

和光園だより



祝百寿
梶山咲子さん、百歳のお誕生日を迎えられました。お孫さんからは素敵なフラワーアレンジメント、児童室の子ども達からは手作りの壁掛け、厨房スタッフからは手作りのパースデーケーキがプレゼントされました。梶山様より内祝いのお饅頭を頂きました。

《中国地区老人福祉施設協議会表彰受賞》
◎佐野良介（包括社会福祉士）
①「高校生の時に友人が老人大学に連れて行ってくれたことがきっかけです。高齢者イコール弱い人というイメージを覆すエネルギーに活動する高齢者と交流を重ねる中でいつしか高齢者に何かしらかわる仕事をしてみたいなと思うようになりました。その想いが今日につながっているように感じます」 ②「ボランティアでまずは現場に行ってみて下さい。実際仕事にするとボランティアで体験することとは別物ではありますが現場の空気感を味わってみることが何より大切だと思います」

《全国老人福祉施設協議会感謝状》
中国地区老人福祉施設協議会全表彰受賞
◎重森洋子（特養介護士・委員長）
①人の役に立つ仕事に就きたかった事と、自分が中学生の時、祖父が入院し、認知症の症状に衝撃を受けたことで福祉の世界に興味を持ちました」 ②「介護の仕事が学

ぶ事はとてもおすすすめです。知識は、
もちろん。現場で働く事により、沢山の『勤（五感・六感等）』『技術』を身に付けられます。それにより今後大切な家族の命を守る事が出来る可能性があります『何かおかし。病院に行った方がいいかも』で助かる命もあると思います」

《中国地区老人福祉施設協議会表彰受賞》
◎荒井直之（居宅介護支援専門員兼デイサービス生活相談員）
①「知人に勧められて」 ②「三年やってみて、人脈が広がれば楽しいことが増えます。学びと遊びの両方を大切にされるとよいと思います」

◎福本則子（デイサービス介護士）
①「前職の会社が事業を停止した為。これといった資格もなく、次は手に職を付けたかったので紹介もあり、介護の仕事を選びました」 ②「私は違いますが、介護士の仕事は段階的なキャリアアップを叶えやすいのが魅力の一つ。資格を取得することで業務範囲を広げられます」

◎市場ももこ（特養介護士リーダー）
①「幼い頃から障害のある方と接する機会が多く、自然としっかり介護のことを学んでおきたいと思いこの道に進みました」
②「仕事のイメージとして、辛い重労働という感じがありますが、その分、人の真心ややさしさに触れる事が多く、励みになりやりがいをたくさん感じれるお仕事だと思います」

《中国地区老人福祉施設協議会表彰》
異社協会会長表彰受賞
正田奈津子（包括支援センターセンター長）
①「祖父が脳梗塞で倒れ半身麻痺になり、祖母が自宅で介護していました。当時何の知識もなく、勉強してみたいと思いました」
②「介護というのは、まだまだ先の話に思いかも知れませんが、とても身近な問題と感ずる日が来ると思います。その時に知識・技術が自身にあることは、とても心強い糧となります。一緒に頑張ってみませんか」



開園記念御膳です。羊羹は舛井総務の手作りです！

《広島市社会福祉協議会会長表彰受賞》
◎松岡和恵（特養・看護兼機能訓練指導員）
①「長年医療の現場に勤めて参りましたが何かしらパターンの違う方向に進んでみたいと思うようになりました。長年居た病院もお年寄りの方が多く、認知症の方もありました。頭で考えたよりも大変に難しく、慣れる迄は毎日悩みました。何年経っても同じように考えさせられることばかりの日です。勉強させていただきました」
②「若い時には何でもできる気がするし、またして欲しい、チャレンジ、だけですかね。只始めたからには①まず慣れる。それから②自分の考えを出す。はじめから自分の思う様にしようとする、人間関係うまくいきません」

◎佐藤由紀美（特養介護士・委員長）
①「以前の接客業のお客さんと、介護士の方が割とおられ、介護の話などを聞き、おもしろそう、楽しそうだと思います。又自身のコミュニケーション能力の向上にもつながると考えました」 ②「何か不安が、人それぞれだと思いますが、先に生まれた方々の様々な人生、性格を身近に受け止め、その方々が介護施設に入るまでのご家族の大変さを考えさせられます。自身の人生観を顧みることが出来、そしたら自分自身の不安はどうでも良くなりました。もしかしたら自分の家族より長い時間かわる方もいます。皆さん長生きです」

《公益社団法人広島市老人福祉施設連盟 会長表彰受賞》
◎齊藤和江（特養・介護士）
①「ありきたりですが、小さい頃、祖父母と住んでいたこともあり介護の勉強をしたら、何か助けてあげることがあるかもしれないと思ったことがきっかけです」
②「楽な仕事ではないと思いますが、自分に合った職場に巡り合えたら、楽しく、助け合いながら、長く勤めることができると思います。ぜひ、和光園と一緒に働きましょう」



平成16年の町内夏祭りにて。生活相談員だった頃の正田所長！

《和光園永年勤続三十年表彰》
◎正田恵一（居宅・デイサービス所長）
①「高校時代から様々なバイトをしていました。その中で、イベント関係の仕事をした時、階段を車いすごと抱えて昇降介助をした方から、満面の笑顔で『ありがとう』と言ってもらったことがきっかけとなりました」 ②「仕事（職業）って本当にたくさんある中で『介護』や『看護』の分野に興味を持たれたのならそれだけでも、縁だと思えます。今、一生その仕事をする時代ではありません。ぜひ一度この業界で働いてみて下さい。直接人に対する仕事だからこそやりがいや喜びがきつとそこにあると思えます」



正田所長、荒井生活相談員は、何を隠そう“しょうらい”というユーザーとして活躍中！“タケタカ”で検索してみてください（*^^*）

春の火災予防運動
3月1日～3月7日

春の火災予防運動
『平和都市 みんなでつくる 防火の輪』